1月20日㈯ 全体班長会後　10時半～12時
伊那センターで行った　生産者交流会の内容を報告します。斉藤真希

松本波多の三村牧場三村さんをお招きして、ドローンで撮影した大きな牧場の設備がよく分かる動画を見ながらお話を聞きました。

・270頭という規模は、3人お子さんの家庭を含めた、4家族が食っていくために最低の規模。
・搾乳ロボット、飼料作り。とても大きい高価な機械が次々登場し、家族経営の酪農にも高額の設備投資が必要。
・三村さんは3人のお子さん方が後を継いでいるので、「かなりブラックではあるが、家族経営だから成り立っています。孫たちが安心して継げるようにがんばりたい。」
・家族全員で旅行に行ったことは一度もない。
・コロナにかかった時も、朝晩の搾乳はしていた。
・ロシアウクライナの紛争で穀物相場が上がった。 自給飼料を作っているので相当助かっているが、粗飼料（草）は足りないので輸入も使っている。
・生活クラブからの義援金で心が折れずに済んだ。
・一年前に日本の酪農危機が報道された後に、国からの支援もあり首がつながった。
・多少の雑菌があっても高温で殺菌してしまう高温殺菌牛乳とくらべると、低温殺菌牛乳を生産するためには清潔であることが厳しく求められる。

◆参加した組合員の感想の一部
・生産者さんの声を生で聞くことは、胸をうたれますね。
・動画を子どもたちにも見せてあげたい。
・酪農家の厳しい現実を知りました。
・ご家族で支え合いながら毎日毎日働いていることが、とてもよく分かりました。
・とても細やかな心配りをされた牛乳を、日々当たり前に飲むことが出来ているということに、本当にありがたさを感じます。
・牛たちがつながれることなく、自由に歩き回れるきれいな牛舎で育てられていることが分かりました。
・牛たちがのんびりといい顔で、見ていてほっとしました。
・搾乳ロボに驚きました。 餌を食べたくて、牛たちは自分で搾乳コーナーに入っていき、自動的に搾乳される！
・飼料を国内生産で賄ってほしいですが、自給飼料を作ることは、費用と手間が大変かかることだと知りました。
・生産者さんの顔、家族、暮らしを知ることができ、いつもいただく牛乳への思いが変わりました。
・地域で酪農が続くことが、農地、地域を守ることになっている。（田んぼとの循環）
・すごいの一言。誇りと喜びをもって働いている姿に感動します。
・知ることで消費材への思いも深まり、きばるの甘夏同様、食べもの見方が変わります。